

平成17年度 大学院工芸科学研究科 秋入学宣誓式
学長告辞

本日、京都工芸繊維大学大学院に入学されました博士前期課程九名、博士後期課程七名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心から歓迎の意を表します。今日、研究を志向する新しい力を迎え入れることができたことは、京都工芸繊維大学にとって、大きな慶びであります。

京都工芸繊維大学は、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探究する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出しながら、時代の進展とともに百有余年にわたり発展を遂げてまいりました。そのような本学は、さらなる発展を目指すため、昨年、大学の基本理念を制定いたしました。

本日、喜びと希望をもって入学された皆さんには、まず、本学の基本理念の中で謳っている教育研究の指針を紹介させていただきたいと思います。

第一は、「人類の存在が他の生命体とそれらを取り巻く環境によって支えられていることを深く認識し、人間と自然の調和を目指す」ことです。

第二は、「人間の感性と知性が響き合うことこそが、新たな活動への礎となることを深く認識し、知と美の融合を目指す」ことです。

第三は、「社会に福祉と安寧をもたらす技術の必要性を深く認識し、豊かな人間性と高い倫理性に基づく技術の創造を目指す」ことです。

本日入学した皆さんも、この教育研究の指針をよく理解し、これからの大学での研究活動の指針としていただきたいと思います。

理念に謳っていますように、本学は、環境と人間性を重視するヒューマンオリエンテッド・テクノロジーを目指していますが、環境や人間と調和する技術という問題は、科学・技術に携わる人々だけでなく社会全般で、世紀を超えて、広く問われてきた問題であります。

今年から丁度百年前の一九〇五年は、現代物理学を切り開く五つの画期的な論文がアインシュタインによって発表された年であり、物理学にとって「奇跡の年」とよばれた年です。

国連総会で、百周年にあたる今年を「物理の国際年」とされ、世界各地で「世界物理年」の行事がおこなわれています。

この百年間のあいだに、現代物理学は飛躍的な発展を遂げました。その成果は、現代の私たちの豊かな生活の基盤を形成してきました。

物理の知識は、純粋物理の領域だけでなく、科学、生物、地球科学などの理学、さらには電気・電子、機械などの工学の分野にも幅広く応用されています。また、核の利用と核拡散の問題や宇宙空間における地球の位置づけを認識させたことなどにより、私たちの世界観や人間観といった精神世界にも多大の影響を与えてきました。

「世界物理年」は、人類に「豊かさ」をもたらした科学と技術の飛躍的発展をたたえるだけでなく、科学者・技術者が、歴史を振り返り、科学技術が人類と地球環境にもたらした「影」の部分の直視することによって新たな科学と技術の在り方と、その目指す方向性を模索する機会を与えることも目的としています。

数理哲学者であるバートランド・ラッセルは、一九三五年出版の「懐疑論」の中で次のように言っています。「機械は、美しいから崇拜され、力を授けるから尊重され、恐ろしい姿をしているから憎まれ、奴隷状態をおしつけるから嫌われる」。このラッセルの言葉は、現在の社会で起こっている人間と科学技術の齟齬、現代の人々が科学技術やそれに基づく巨大システムに対して抱いている感情に、そのまま当てはまります。

さらに、近年の電子情報機器の登場は、人間そのもののあり方にも根本的な変化を生じさせつつあります。世界的な情報ネットワークの拡大は、それを使う人間の感覚を肥大化させ、大きな力を手にしたという万能感を感じさせることによって、現実の自己の感覚に揺らぎを生じさせています。このような、人々の感覚の不安定化は、社会や人間関係にも大きな影響を与えています。

我々が直面しているこのような状況は、多くの克服すべき困難な問題が山積していることを意味します。

百年前を振り返りますと、現代の科学技術の飛躍的發展をもたらした研究は、自然の美しさへの畏敬、自然現象の奥にある真理への想像力、そして論理的な思考の追求などに動機付けられ、先入観の呪縛から解き放たれて、新たな世界を切り開いたものでした。決して物質的な豊かさを目的としたのではなく、真理探求という人間性の本性によって導かれたものでした。

しかし、科学技術の発展の中で、このような考えが次第に失われ、研究分野の専門分化が進み、研究開発が競争的に行われる様になりました。その結果、エネルギーなどの地球資源利用が幾何級数的に拡大し、地球の循環システムに不可逆的な影響を与えるようになり、「持続可能性」が喫緊の課題となりました。

そして、百年前には想像もつかなかったことですが、今では、科学技術の場で人間性の回復が求められているのです。

このような社会状況の中で、本学は、我々が直面している地球規模の問題を真正面から受け止め、それを克服するための教育研究を行なうことを決意し、その決意を理念の中に謳いました。

本日入学された皆さんには、この本学の理念に示している教育研究指針を十分に認識し、人類の長年に亙る課題である「環境と人間性を重視するヒューマンオリエンテッド・テクノロジー」の開発に貢献できる人材として成長されることを希望いたします。

皆さんの大学院生活が実り多いものであることを期待し、お祝いの言葉といたします。

平成十七年十月三日
京都工芸繊維大学長
江島義道